

### Ⅲ 若年女性のための自立支援講座の プログラムについて



## 1 実施状況

### (1) ガールズ講座

本事業として2010（平成22）年度に行ったのは下記の太枠で囲んだ第3期・第4期の2コースであるが、この講座は2009（平成21）年度に試行実施している。本報告書におけるプログラムの評価は、試行実施の講座を含め、すべての参加者からのフィードバックを受けて分析していることから、2009年度からの実施状況を掲げておく。なお、試行実施の第1期・第2期講座は日本マイクロソフト（株）助成によりNPO法人全国女性会館協議会が行っている助成事業の1事業として実施した。

なお、講座のチラシおよび講座説明会で配布している申込書、講座カリキュラムについては、本報告書巻末の資料に添付している（78ページ～）。

	実施日	応募者数	参加者数	構成・時間
【2009（平成21）年度】				
第1期	2009（平成21）年 5月29日～ 7月7日 (16日間)	32人	20人	前半：パソコン講座9日間 (13:00-16:00) 後半：しごと準備講座7日間 (10:30-14:30)
第2期	2009（平成21）年 10月23日～ 12月3日 (16日間)	60人	24人 (前半のみ、 後半のみの 参加あり)	前半：パソコン講座9日間 (13:00-16:00) 後半：しごと準備講座7日間 (11:00-15:00)
【2010（平成22）年度】				
第3期	2010（平成22）年 5月28日～ 6月28日 (16日間)	25人	22人	第2期と同様
第4期	2010（平成22）年 10月26日～ 11月15日 (11日間)	22人	20人	前半と後半の区別をなくし、11日間に変更。 ★パソコン講座10コマ 13:30-15:30 ★しごと準備講座12コマ 11:00-12:30 +最終日午後

実施の時間帯と構成については、開講当初から試行錯誤してきた。先行して若者支援を行っている機関の方からの「朝起きるのが苦手な人が多いから、出だしは午後からにしては。それもパソコンなどのスキル系がいい」とのアドバイスにより、そのよ

うにスタートした。後半をしごと準備講座とし、10時30分から行うようにした。しかし、昼夜逆転の生活をしている受講者は思いのほか多く、10時30分にも遅れがちであった。これまで当協会で行ってきた再就職のための講座とは異なり、必ずしもすぐに就職することを目的にしていなかった一段階前の準備講座であるため、受講者の現実に合わせて第2期は後半の開始時間を11時からに遅らせることにした。

第1期から第3期まではこの構成で行った。前半のパソコン講座中は自分のことを話したり、人の話を聞いたりする時間はほとんど設けず、パソコンスキルの習得のみを集中して行った。緊張が強く、「自分のことを話すのはとても苦手」「人と関わるのがこわい」という受講者の状況に配慮したためである。

とはいえ、後半につなげていく導入として、冒頭に声を出す時間を設けた。13時の開始にあたって、あまり悩まずに回答できる簡単な質問を投げかけ、全員に発声してもらうようにした(「パスします」という返答もありとした)。質問は「家からここまでどんなルートで、何分かかりますか」「好きな食べ物はなんですか」などである。

しかし、第3期のアンケートで受講者の何人かから「前半のパソコン講座ではあまり知り合えないのでかえって緊張した」というコメントがあったことから、第4期は前半と後半を分けずに、午前は11時から12時30分までしごと準備講座、午後は13時30分から15時30分までをパソコン講座とした。第3期までは9日間27時間行っていたパソコン講座は10日間20時間に短縮した。パソコンスキルには年代と職歴の有無により個人差はあるものの、若年者は習い始めると習得のスピードが速く、短縮しても大きな支障はみられなかった。

開催頻度は、毎日通うのは無理があるかもしれないと考え、週に3日程度とした。これはおおむね好評であった。

ほかの要素としては、実施時期にも一考を要した。受講者は、うつなどで通院している人が多いのが現状である。初夏はよかったが、第2期は秋から冬に向かう季節で、冷え込んだり気圧が低くなった日にはからだに敏感に反応するようで、参加しづらい人が多かった。そのため、第4期は寒くなる前の11月に講座が終わる日程とした。

## (2) 就労研修講座

「ガールズ講座」修了生のうち就労体験希望者を対象として研修を実施、研修を修了した者を一定期間スタッフとして雇用する「就労体験カフェ(めぐカフェ)」を男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)で運営している。巻末の資料に就労研修のプログラムについて(98ページ)、ならびにカフェの概要に代えて「めぐカフェだより」(99ページ)を掲載した。

就労研修講座は、すでにカフェスタッフとして就労しているメンバーが代わる代わ

る講師役になり、希望して研修を受ける後輩に自分が身につけた技術や体験を伝えるという目的で行っている。具体的には次の5回、1回ずつ5人のメンバーが講師やスピーカーになって実施した。

2011（平成23）年 1月19日(水)	先輩スタッフの体験談(1) どのように体調を管理して仕事に向かったか
1月24日(月)	先輩スタッフの体験談(2) どのように仕事を覚え、自信がついたか
1月26日(水)	写真撮影の基本技術 講義(ホワイトバランスと色味)と撮影実習
2月3日(木)	ブログ・ライティング&ツイッター 講義とブログ掲載実習、撮影した写真をアップする
2月8日(火)	カフェ業務の流れとドリンク実習 一日の業務説明と留意点、コーヒー・紅茶の入れ方

講師役やスピーカー役のメンバーは緊張して当日に臨んでいたが、自分の経験を人に話すことで、できるようになったことやできていることが明確になり、仕事に対する向上心がより高まったなどの声を多く聞いた。また、写真技術やITスキルの高いメンバーは得意なことを人に教え、レジュメを作る体験をし、わかりやすく情報を伝える工夫をするなどのなかで「人の役に立てた」という自信を得た。

いずれの場合も、講座の受講者という立場でいたときとは異なり、人に何らかのサービスを提供する側にまわることで多くの気づきがあった、というコメントが寄せられている。

## 2 プログラムの内容

### (1) パソコン講座

2009(平成21)年3月に当協会がまとめた「若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査」において、対象者から「パソコンが苦手」という回答が多かったことからパソコン講座を設けることにした。定員20人に対し、女性講師3人という手厚い態勢で行っている。

パソコン講座を委託しているNPO法人ITスキルサポートフォーラムにはこの講座のためにテキストを書き下ろしてもらった。パソコンを使って仕事をするという想定になっており、受講者は「ガールズ21 トラベル(株)」という架空の旅行会社の擬似社員となって旅行のチラシを作ったり、ビジネスメールを発信したり、顧客データベースを作ったり、売上管理を行ったりする内容となっている。

具体的なカリキュラムは次の通りである。

日々の講座終了後に進捗状況と受講者の様子について、頻繁に振り返りを行っている。

《カリキュラム》

	テキスト	学ぶ内容
1	ワード（基本操作）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な操作</li> <li>・ 入力の流れ</li> <li>・ 保存</li> <li>・ 簡単なレイアウト</li> </ul>
2	ワード（ビジネス文書とレイアウト）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文書作成の流れ</li> <li>・ ページ設定</li> <li>・ レイアウト</li> <li>・ 印刷</li> </ul>
3	ワード（表や絵を入れる）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訂正</li> <li>・ 切り取りとコピー</li> <li>・ 表作成</li> <li>・ 図の挿入</li> </ul>
4	インターネット入門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットのしくみ</li> <li>・ IE の使い方</li> <li>・ お気に入り</li> <li>・ 検索</li> </ul>
5	エクセル（基本操作）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画面構成と基本的な操作</li> <li>・ 基本的な表の入力</li> <li>・ 修正</li> <li>・ 範囲選択</li> <li>・ データの消去</li> </ul>
6	エクセル（表の作成1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表の作成と編集</li> <li>・ 実務で使用される関数（SUM、AVERAGE など）</li> </ul>
7	エクセル（表の作成2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絶対参照</li> <li>・ 表のコピーと移動</li> <li>・ 複数ワークシートの扱い</li> </ul>
8	ビジネスメール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールの仕組み</li> <li>・ ビジネスメールの書き方</li> <li>・ CC、BCC の使い方</li> </ul>
9	インターネットとメールの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールを活用する方法（添付、圧縮など）</li> <li>・ セキュリティについて</li> </ul>

※これは第3期までの3時間×9日間の設定のカリキュラムである。

第4期は同じテキスト・内容を、2時間×10日間で行った。

## (2) しごと準備講座

しごと準備講座では、緊張をほぐして心身の調子を整えながら、必要な情報を得、自分に合ったしごとや働き方を考えていくことをねらいとしている。講座の流れは次のように組んでいる。

### 《カリキュラム》

	内 容	担 当
1	写真による自己紹介(フォトランゲージ)& しごと準備のポイントと自分チェック	ファシリテーター
2	からだほぐし	無藤恭代(整体師)
3	自分を大切にする方法	久保彩 (アサーティブネス講師)
4	呼吸とリラックス、自分の声	木村静(ヴォイス&メディアプランナー)
5	就活&しごと体験談 セルフケアの方法をさがすワーク	修了生 1、2 名 ファシリテーター
6	適職チェック (VPI 職業興味検査の簡易バージョン使用)	ファシリテーター
7	安心のしくみを知り、社会の中の私を見つけよう(ライフプランとお金のこと)	内田ふみ子(ファイナンシャルプランナー)
8	アルバイトでも最低限知っておきたい法律、相談先	かながわ労働センター相談員
9	履歴書と写真、職務経歴書	保坂公美子(よこはま若者サポートステーション)
10	自分を好きになるメイク講座 (株)イオフォルストより資材と技術提供)	ザ・ボディショップの ボランティアのみなさん
11	ふりかえり、これからの計画づくり	ファシリテーター
12	目標を語る交流会 修了後のフォローアップのご案内	ファシリテーター

※ 各コマは 90 分で構成。

講師は各分野の専門家でありながら生活困難を抱える若い女性を支援するマインドに富んだ、さまざまな年代の方を招いている。講師の方々には、個人情報ではないかたちで受講者の大まかなプロフィールを伝え、講座の内容や進行への配慮をお願いした。

テキストの作成にあたっては、次の点に留意した。

- ・ 分量が多すぎて内容が消化できないことがないように、ポイントを簡潔にまとめる。
- ・ 難しい漢字を使わないようにする。
- ・ 社会の変化の中で、（正規雇用には就けないなど）受講者の置かれている状況が生じているということがわかるような内容を盛り込む。
- ・ 社会にはさまざまなサポート機関がある、（年金の支払い免除など）支援のしくみがある、相談窓口があるということをしてできる限り具体的に、持ち帰れる情報として盛り込む。

各プログラムの内容や量、進め方が適切であったかどうかをみるために、毎日ではないが、折に触れて無記名のミニアンケートを行っている。

ファシリテーターは、一連の講座の底流を支え、場の安全を守る役割を果たす。現在、ファシリテーターは初日と中盤と最終日に、外部講師なしで担当するコマを持っている。初日は安全な場をつくるためのルールを確立することがもっとも重要な仕事である。中盤は受講者の状況やニーズをよくみて必要な情報や資料、説明を補い、進捗状況の確認や内容の調整を行う。また、個別の体験談のなかから汎用性のあるポイントを確認、全体でふりかえりを行うなかで、受講者が自分の感覚や体験と照らし合わせて理解を深められるようにサポートする。特に「セルフケア」や講義時間が不足しがちな「職務経歴書」について補足説明することが複数回あった。最終日は受講者全員の気づきや変化、これからの希望について自己確認作業と言語化をサポートし、一人ひとりの発言に対してフィードバックして支持し、全体のなかでわかちあい、希望を定着させていくことを心がける。

体調が万全でない受講者も多い現実からは、現行の1コマ90分より長い時間設定は難しい。しかし、内容によっては時間が不足することがあり、受講者にとって消化半ばになってしまう場合もある。一部の講師からも情報を十分伝え切れなかったとの声が出ている。

しごと準備講座の構成とその特徴についてはⅣ-2「プログラムの考え方・特徴・運営のポイント」の項を参照されたい。



### 3 受講者プロフィール

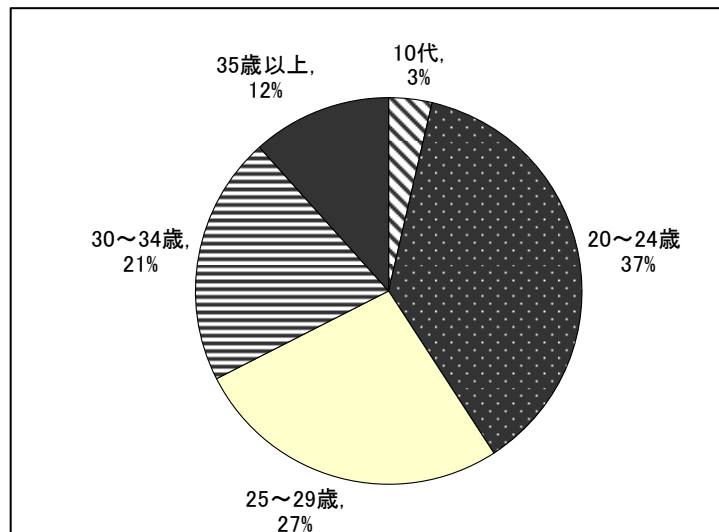
#### (1) 受講者数

「ガールズ講座」受講者数は1期20人、2期24人、3期22人、4期20人の合計86人である。

#### (2) 年齢

最年少15歳、最年長45歳である（対象は39歳までとしているが、空席があった際に40代の者を受け入れた）。20代前半が37%（32人）と最も多く、20代後半27%（23人）、30代前半21%（18人）、35歳以上12%（10人）、10代3%（3人）と続く。

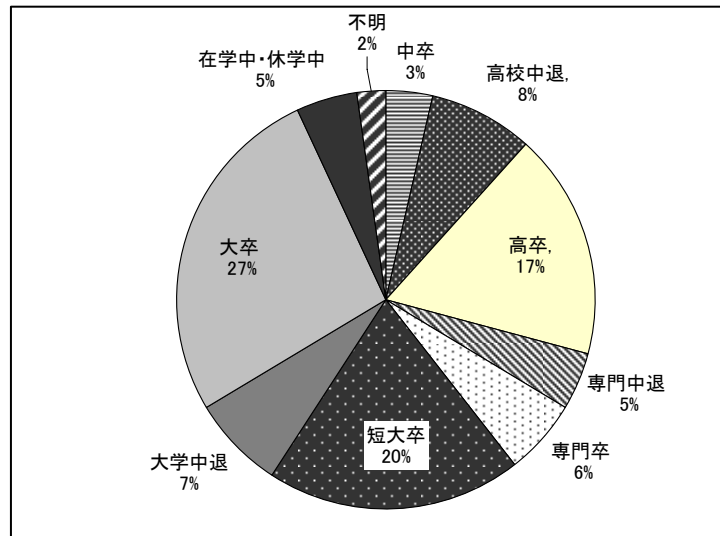
図表1 受講者の年代



#### (3) 学歴

大卒が27%（23人）と最も多く、短大卒20%（17人）、高卒17%（15人）、と続く。大卒と短大卒を合計すると47%を占めており、よこはま若者サポートステーション登録者との比較では、やや学歴が高い。いずれかの段階で学校を中退している者は20%であり、よこはま若者サポートステーション登録者とほぼ同じ割合である。高卒には、通信制高校卒業者を含む。

図表2 学歴別

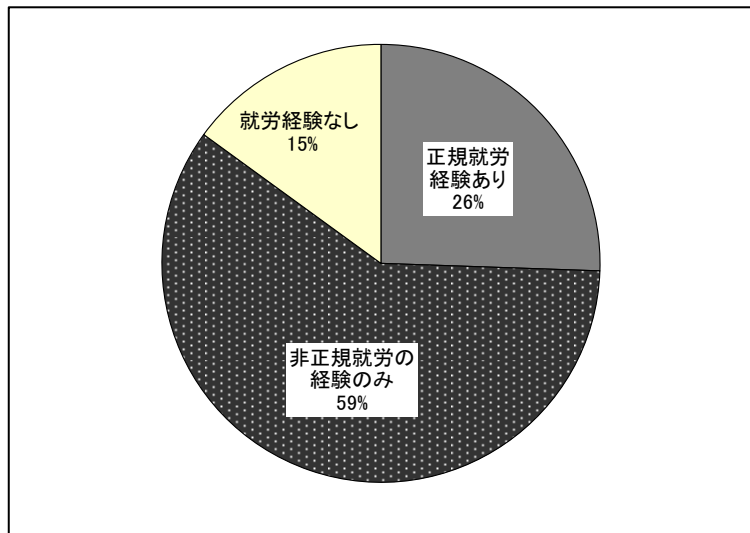


(4) 職歴

非正規での就労経験のみの者が59%（51人）と多い。正規での就労経験がある者は26%（22人）と約3割、就労経験がない者は15%（13人）となっている。

よこはま若者サポートステーション登録者との比較では、正規での就労経験がある者の割合が6%多く、就労経験がない者の割合が約1割少ない。

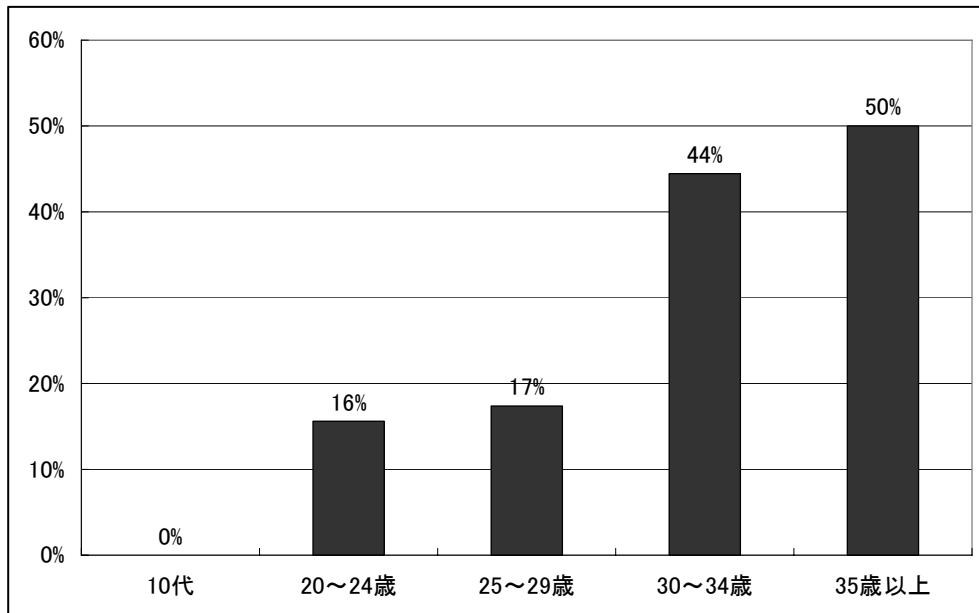
図表3 職歴別



### (5) 年代別正規就労経験率

20代と30代で正規就労経験率に大きな差がある。20代では、正規就労を経験している者は2割以下だが、30代では4割以上となっている。

図表4 年代別正規就労経験率



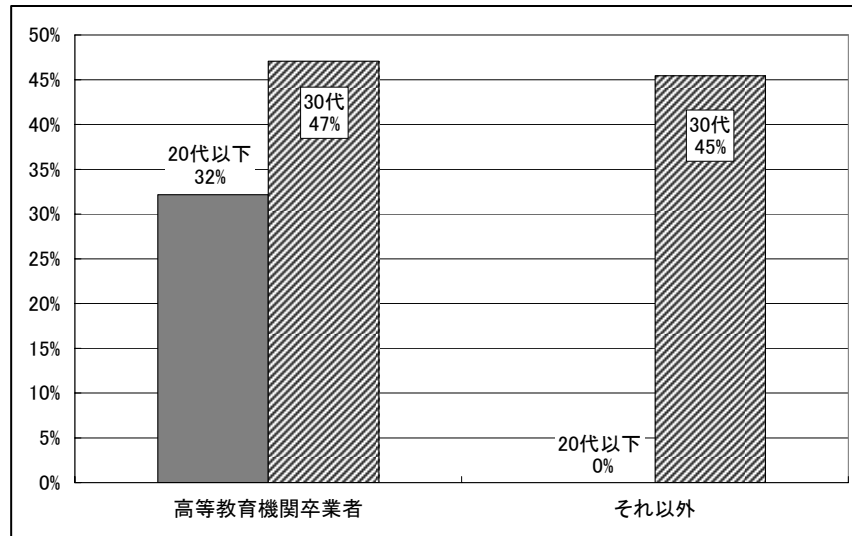
### (6) 学歴・年代別にみた正規就労経験率

正規就労経験率について、学歴、年代とクロスして集計した。学歴については、専門学校、短大、大学を卒業した者を「高等教育機関卒業者」とし、中卒、高校中退、専門学校中退、大学中退、不明の者を「それ以外の者」とした。

正規就労経験率がもっとも高かったのは30代の「高等教育機関卒業者」で47%、次いで30代の「それ以外の者」が45%となっており、30代では大きな差がない。20代では「高等教育機関卒業者」の20%は正規就労を経験しているのに対し、「それ以外の者」は0%だった。

受講者がいつの時点で正規就労を経験したかについては明らかでないので、以下は推測であるが、現在20代の者が社会に出た時期に正規就労できるチャンスは、30代の者が社会に出た時期に正規就労できるチャンスより少なくなっており、特に高等教育機関を卒業していない場合には、正規就労できるチャンスは非常に少なくなっていると考えられる。

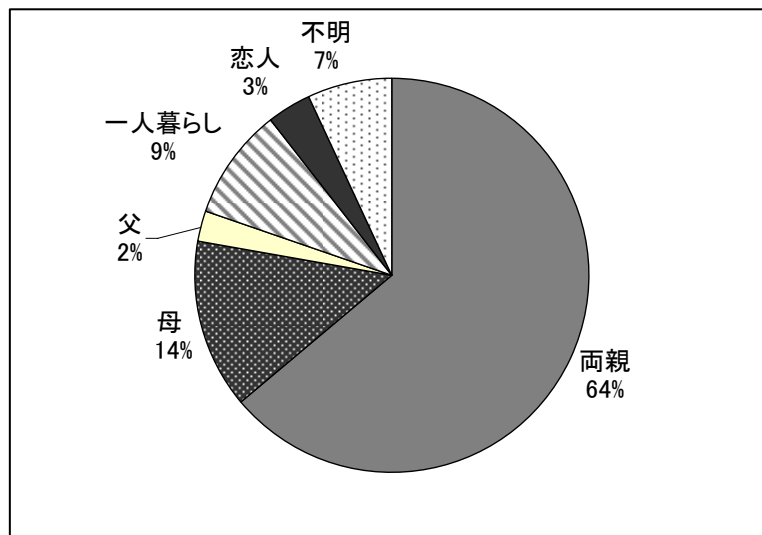
図表5 学歴・年代別正規就労経験



(7) 同居状況

両親と同居している者が64%（55人）ともっとも多い。次いで母と同居している者が14%（12人）となっている。この値は、横浜市における全世帯に占める母子世帯の割合6.5%（平成17年国勢調査）と比較してかなり高い。父と同居している者が2%（2人）で、ひとり親家庭の者は16%（14人）となっている。一人暮らしをしている者は9%（8人）、恋人と暮らしている者は3%（3人）であった。

図表6 同居状況



(8) 心身の健康状態

申込書に「この講座に期待すること、応募動機、不安なこと」を自由に記述する欄を設けたところ、心身の不調についての訴えについての記述が合計30件あった。もっと

も多かったのは、「体調が悪い、不安定、体力がない」という内容の訴えで、11件だった。次いで、「精神的に不安定、心身の調子が悪い」「ストレス下で心身症状がでる」「うつ」がそれぞれ4件、「婦人科の病気（子宮筋腫、内膜症）」が2件、「大きな病気の既往」が1件だった。その他として、心療内科を受診していること、なんらかの持病があること、不眠症に悩んでいること、摂食障害の既往があることについての記述があった。

講座のなかでは、通院、服薬経験が多数語られており、申込書から読み取れる以上に、心身の調子が悪い受講者が多いことが把握されている。

図表7 心身の不調の内容

訴えの内容	件数
体調が悪い、不安定、体力がない	11
精神的に不安定、心身の調子が悪い	4
ストレス下で心身症状がでる	4
うつ	4
婦人科の病気（子宮筋腫、内膜症）	2
大きな病気の既往	1
その他（心療内科受診、持病がある、不眠症、摂食障害）	4
合計	30

#### (9) 困難を感じていること、これまでの困難な経験

心身の不調以外に、申込書の自由記述欄には、困難を感じていること、これまでの困難な経験について40件の記述があった。もっとも多かったのは、「コミュニケーション、対人関係が苦手」という内容の記述で20件だった。次いで「自信が持てない」ことにかかわる記述が10件、「経済的困窮、不安」にかかわる記述が5件、「職場での困難な経験（過酷な労働条件、リストラ、パワハラ、派遣切り）」について4件、「仕事への意欲がもてない」が1件となっている。このほか、講座のなかでは、学校でいじめにあった経験なども語られている。

図表8 困難な経験

困難な経験の内容	件数
コミュニケーション、対人関係が苦手	20
自信が持てない	10
経済的困窮、不安	5
職場での困難な経験（過酷な労働条件、リストラ、パワハラ、派遣切り）	4
仕事への意欲がもてない	1
合 計	40

### (10) 受講者の類型

受講者は、正規就労の経験の有無により、次の2つのグループに分けられる。

#### <就労経験がない、あるいは非正規の就労経験のみ>

学校生活において、あるいは学校を離れて社会に出る段階でなんらかの「つまずき」があったのではないかと推測され、以後、不安定な状況にある。非正規就労の内容としては、数ヶ月から数年の期間、アルバイト、派遣を複数経験している。20代以下の者、高等教育機関を卒業していない者に多い。

#### <正規就労の経験がある>

過酷な労働条件、激務で消耗、パワーハラスメント、会社都合、うつなどなんらかの原因により、正規就労から無職あるいは非正規就労へ移行している。「働く→ひきこもるのループから抜け出せない」といった記述もあり、厳しい状況から抜け出すことが困難なことがうかがえる。30代の者、高等教育機関を卒業している者に多い。

### (11) 考察

男女共同参画会議監視・影響調査専門調査会では、「新たな経済社会の潮流の中で生活困難を抱える男女に関する監視・影響調査報告書」において、経済社会の新たな潮流を分析し、そのもとで生じている生活困難の実態、男女共同参画の観点からみた生活困難の現状について検討を加えている。

同報告書では、「女性と労働をめぐる問題」として、女性の非正規雇用が増加し、若年の未婚女性においても多くなっていること、女性の非正規雇用は有期雇用が多く非正規雇用を繰り返しやすい傾向があると指摘している。また、「生活困難をめぐる状況～困難の複合化・固定化・連鎖」として、「ニート等についても、いじめ等の経験が自尊感情の低下と社会からのひきこもりをもたらし、(中略)就労しても非正規雇用中心で断続的な就労ゆえにキャリアを積み上げられず困難な状況を固定化している」と分析している。これらの指摘および分析は、ガールズ講座受講者のプロフィールから読み取れる事柄と一致している。

また、同報告書では、「ひとり親世帯」が直面している生活困難の実態について、相対

的貧困率（※注）が高く低所得であること、「家計を維持するために母親が長時間労働や多重就労をせざるをえず、身体をこわしたり、時間的にも精神的にも子どもに十分に対応できない母子世帯があるといった問題」を指摘している。ガールズ講座受講者のうち、母子世帯と思われる者が 14%おり、親世代の困難の影響を受けている可能性も考えられる。

同報告書では、「男女共通にみられる状況」として 7 要因を指摘しているが、そのうち、「成育家庭をめぐる問題」「自尊感情の侵害による社会的不適応」「雇用構造をめぐる問題」「生活上の障害」の 4 要因は、「ガールズ講座」受講者のプロフィールから読み取れることと一致している。

同報告書で言及がないが、「ガールズ講座」受講者のプロフィールからは、いったんは正規雇用者として就労した後になんらかの原因で離職し、その後、不安定な状況にある若い女性たちがおり、支援を必要としていることがわかる。

（※注）「相対的貧困率」とは、等価可処分所得（収入から税・社会保険料を差し引き、社会保険給付を加えた額を、世帯の人数の平方根で割って調整した値。世帯構成員の所得水準を示す）の中央値の 50%未満の所得の人口が全人口に占める割合。つまり、国民を所得順に並べたときに、真ん中の順位の人の半分未満の所得しかない人の割合のこと。

## （12）想定される若年女性支援における対象者像

上記の 1 期から 4 期までの「ガールズ講座」受講者のプロフィールと、講座のなかで語られた事柄から、次のような対象者像を想定する。

- ・独身で親と同居している。
- ・ひとり親家庭（の娘）で親と暮らす者も少なくない。世帯として余裕がなく、親からプレッシャーを受けている。
- ・正規就労の経験が少ない。
- ・複数の非正規就労を経験しているが、キャリアの積み上げにつなげていない。
- ・いじめ、不登校、家庭内の問題、病気、職場での燃えつき、パワーハラスメント、性被害など、傷つき経験をしている人が多い。
- ・心身の不調を抱えている。通院、服薬している場合も多い。
- ・コミュニケーション、対人関係で困難を抱えている。
- ・自己肯定感がもちにくい。
- ・一部の者は発達障がいをもっている。人とのやり取りが苦手な特有のこだわりをもっている。が、ある 1 点では飛びぬけた才能をもっている者もいる。
- ・孤立している。